

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177100278		
法人名	株式会社 北星		
事業所名	グループホームなの花すながわ		
所在地	北海道 砂川市 空知太 西1条3丁目 3番22号		
自己評価作成日	平成26年12月14日・25日	評価結果市町村受理日	平成27年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・広々とした中庭があり、花や野菜を育て自由に収穫し、献立に取り入れている。また、中庭を利用し近所の保育所との交流があり、子供たちと年代をこえた交流がある。</li> <li>・施設行事も多く、季節ごとの楽しみとなっている。(海風浴・花見・納涼祭など)</li> <li>・ガス発電機など災害時の備蓄を備え、地域の方の避難所となるよう運営推進会議を通して呼びかけを行っている。</li> </ul>
---

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaikokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0177100278-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaikokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0177100278-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年2月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「グループホームなの花すながわ」は、砂川市郊外の静かな住宅地に立地している。明るい光が差し込んでいる開放感のある居間や食堂には、季節を感じる雛人形や利用者の作品が飾られている。近隣住民から季節に応じて野菜やお米を頂いたり、散歩中に一休みできるよう住民が家の前にベンチを置いてくれるなど、地域に根差した事業所となっている。夏季には、保育園児が中庭に水遊びに来るなどの交流も継続して行われている。元同級生や自宅の近所の方が来訪したり、職員と一緒に親戚のお見舞いや自宅を見に行くなど、馴染みの関係の継続にも取り組んでいる。前回の課題であった「利用者の思いや意向の把握」は、利用者の現状が分かる書式に変更し、定期的に情報を蓄積している。排泄支援においては、各利用者の間隔を把握することで、日中はパッドの使用量やサイズの変更が可能となり、自立に向けて取り組んでいる。救急救命訓練は、職員全員が受講しており、計画的に研修を行いながら資質向上を目指している。中庭でかき氷を作ったり、焼き鳥を焼いたり、畑で収穫した芋を焼き芋にして食べるなど、日常的に外気に触れる機会を通して風邪やインフルエンザの感染症の発症も減少しており、健康管理にも配慮した取り組みを行っている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(1号館 アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられる (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を廊下、食堂に掲示。職員の名札の裏にも理念が書かれており、ケアに活かしている。また、事業所便りにも掲載し、外部へも理念の浸透を図っている。	「地域との交流を深め、馴染みの環境をつくるように支援します」という、地域密着型サービスを意識した理念を作成している。ユニット会議などで理念に沿ってケアの振り返りを行い、実習生を受け入れる時に全職員で再確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入。町内のゴミ拾いに入居者、職員が参加し毎月の廃品回収に協力。近隣の保育所の来訪もあり、収穫祭や七夕と一緒に行事を行い交流を図っている。またホームの行事に町内の方々が参加してくれている。	事業所の花火大会や納涼祭に地域住民が参加したり、太鼓や歌謡ショーのボランティアが来訪している。ハロウィンの時には、来訪した子供たちに利用者がお菓子を渡している。近隣には、農家をしている住民が多いので、野菜やお米を戴くこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの行事や避難訓練に地域の方々に参加して頂いている。看護学校生や短期大学の学生の実習受入を行っている。後見人研修の受け入れも行った。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に会議を開催。ホームの利用状況や取り組み等の報告を随時行い、関係者との連携や協力体制に繋げている。会議の内容を職員会議にて報告しサービス向上に活かしている。	町内会からの情報提供や、事業所からは外部評価結果などの報告を中心に質疑応答を行っている。全家族に案内や議事録の送付が行われていない為、家族の参加は代表者のみになっている。	テーマを記載した会議案内を全家族に送付し、参加できない家族の意見も収集するよう期待したい。また、議事録も全家族に送付するよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課や地域包括支援センター等と連絡を取り合い、ホームの現状や取り組みを伝えている。	管理者は、介護保険の更新手続きや生活保護者の状況報告などで保護課や介護保険課を訪問している。分からない事があれば、随時担当者に相談している。保護課の職員が来訪する事もあり、生活の様子を伝えている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の資料をユニットに置き、いつでも閲覧出来るようになってきている。玄関の施錠は防犯の為、夜間のみ。日中は出入りが自由な為、外に行かれた時は可能な限り制止せず同行している。ベッド柵は立ち上がりが必要な入居者のみ使用している。	「禁止の対象となる具体的な行為」を記載したマニュアルを整備している。具体的な事例に沿ってマニュアルと照らし合わせながら、拘束のないケアを実践している。マニュアルに沿って全職員で学ぶ機会が少なく、職員の理解には、ばらつきも見られる。	年1回は、「禁止の対象となる具体的な行為」について、全職員で学びを深めるよう期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	E表会議・ユニット会議等で日頃のケアや困っている事を話し合い防止に努めている。研修会への参加は出来なかったが、今後、機会があれば随時参加していきたい。		

グループホームなの花すながわ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料をユニットに置き、いつでも閲覧出来るようになっている。職員間に理解のバラツキがある為、研修会に積極的に参加していき、学びを共有していきたい。現在、入居している方には制度を必要としている方がいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前見学や聞き取り調査の時など不安な事や疑問点を聞き対応している。入居後も日頃のコミュニケーションや家族の面会時など不安や疑問点を聞き対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談窓口を設置し、外部の機関名とともに文書化して掲示している。また、ホーム宛での住所が書かれた封筒も一緒に玄関に置いてあり書き込みやすい工夫をしている。	遠方の家族以外は殆ど毎月来訪しているため、その機会に日頃の様子を報告しながら意見や要望など具体的に聴き取っている。家族の意見は、個別の連絡ノートに記載して職員間で情報を共有している。遠方の家族とは電話で話をしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本社に意見・苦情窓口を設置しており休憩室に文書化して掲示している。また、職員会議やユニット会議、日常の中で職員の意見や提案を聞き反映させている。	管理者は、日常業務の中で各職員の意見や提案を聴き取り、申し送りや会議で検討しながら、運営やケアに活かしている。年度末には全職員で業務の見直しを行っている。新たに着任した施設長とは、個人面談を随時開始している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の仕事への取り組みや意欲など施設長が直接見て、また管理者が随時施設長へ報告している。勤務希望、有給の使用等、出来る限り希望に沿い、働きやすい環境作りを努めている。職員会議やユニット会議で話し合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内を回覧。勤務調整を行い希望者は参加している。事業所で研修費を負担し積極的に参加出来る仕組みになっている。研修内容によっては個別的に機会を確保。また、研修会に参加した職員より会議にて報告があり、全員で学びを共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実践者実習の受入れを行い、サービスの質を向上させていく取り組みを行っている。他施設見学会へ参加し相互訪問の機会を作りサービスの質の向上となるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係に繋がるよう安心・納得がいくまで面談を行い、同時に見学して頂き、不安なことや要望を聞き対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を受けた際には家族の方にも見学に来て頂き不安や要望などを聞き納得して頂けるよう努めている。利用に至るまでの間にもこまめに連絡を取り合い、情報交換を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族からの相談を聞き、場合によっては市役所等への問い合わせを勧めたり、他施設の紹介等もしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	経験や知恵を借り、日常生活のあらゆる場面で入居者と職員と一緒に喜怒哀楽を共にし、傾聴を心掛け暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日常の様子を伝え居室にてゆっくり過ごして頂いている。面会の少ない方には近況報告の手紙を郵送。誕生会や各行事への参加を促し、時には宿泊していく家族もいる。口腔ケア・排泄介助を行ってくれる家族もいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	教会や町の理美容へ行く方が居る為外出しやすいように促しの声掛けを行っている。また、電話の使用や手紙の投函、年賀状の代筆など行い馴染みの関係が途切れないよう支援している。	職員と一緒に、親戚のお見舞いや買い物に出かけたり、ドライブで自宅を見に行くこともある。同級生や自宅の近所の方が来訪する機会も多く、来訪時には居室でゆっくり過ごせるように配慮している。手紙の投函なども職員が支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースは各々が関わり合いを持てる場所を考慮し不都合な時は早めに対応している。食事や間食の時間も皆様が一緒に集え会話が弾むよう心掛けています。一人ひとりの出来る事を見極め役割を持ち役に立っている場面を見て頂きそれぞれが尊重出来る人である事を知って頂いている。		

グループホームなの花すながわ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	殆どが事業所から入院となりサービス終了となっている。入院先の病院には今迄の経過や日常生活の様子を伝え情報提供している。また、お見舞いにも行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中での会話や表情から思いを察しその様子を記録し職員で共有している。困難な場合は生活歴や家族からの情報・生活行動を参考にして本人本位に検討しケアプランや日常のケアの参考にしている。	家族や本人に直接聞いたり、日常の会話から思いや意向を把握している。今年度からは、利用者の現在の姿が分かるフェイスシートを作成するため、書式を変更している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報も含めアセスメントを行い、各自のファイルに詳しく記録し、すぐに取り出せて把握が容易になっている。入居後も日常会話等から情報を引き出し、新しい情報もその都度追加し全体で把握出来るようになっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	専用の記録用紙に、一日の様子・水分・排泄など細かく記入しいつでも確認できるようになっている。口頭での申し送りも行い全職員が把握出来るようになっている。有する力についてはモニタリング会議で多くの意見が出ており全職員が把握できるようになっている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは三ヶ月毎に実施し再認識の機会としている。介護計画は六ヶ月毎に職員のE表を基に本人・家族の意見も踏まえ会議を行い意見を出し合っている。変調時はその都度臨時会議を行い計画を検討し変更している。	各職員が行った評価を基に全職員で検討して、本人や家族の意向を踏まえながら計画作成担当者を中心に6か月毎に介護計画の見直しを行っている。介護計画は、利用者の同席の下に家族に説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画と連動した記録をしチェックを入れている。申し送りやユニット会議、個別のノート、受診往診記録を活用し情報を共有している。体調不良・退院時には早めに介護計画を見直し変更している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的な医師・歯科医師の往診により外来受診の負担が軽減。その時の状況によりGHの職員の付き添いでの受診も可能。訪問美容や家族の急な宿泊にも対応出来るようになっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年二回、消防訓練を実施し消防署や町内会と連携を図っている。また、行事の時にボランティアの方々に慰問に来て頂いたり近隣の保育所との関わりを通し協働を図っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を優先し、家族の協力のもと受診している。必要に応じてホームの看護師も同行し経過説明を行っている。協力医による定期的な往診もあり、緊急時や現病歴の経過を含め適切な医療が受けられるよう支援している。	協力医療機関の医師の判断で専門医を受診している。その際は、家族が受診支援している。適切な医療が受けられるように必要に応じて看護師が同行したり、添書を家族に渡している。往診や受診の記録は個別に「受診・往診記録」に記載している。	

グループホームなの花すながわ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師一名勤務しており、日常生活での健康管理や気付き等、職員と情報を共有し医療面でのアドバイス等ケアに活かしている。24時間看護師と連絡がつくようになっており緊急時の対応も迅速に行える環境になっている。また同敷地内のホームの看護師の協力も得られるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員のお見舞いにより入院生活も安心出来るよう支援している。管理者・看護師が病院とこまめに情報交換を行い、早期に退院出来るよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の在り方については入居の段階で意向を伺っている。重度化や終末期が予想された段階で、かかりつけ医や家族等と連携を図り、本人や家族の思いに添えるよう支援している。それと共に事業所で出来る事を見極めて方針を共有し支援に取り組んでいる。	「重度化した場合における対応に関する指針」を新たに作成し、家族に説明している。常時医療行為が必要になった場合は事業所での対応が難しくなるが、主治医、家族、事業所で方針を共有して、介護で対応が可能な所まで支援する意向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員、普通救命講習を終了している。応急手当や初期対応マニュアルを作成し連絡体制など整え緊急時は2号館や同敷地内のホームとの協力体制も整えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、町内会の方々の協力を頂き消防署立ち会いのもと、日中と夜間想定避難訓練を行っている。冬期間は避難経路をこまめに除雪している。災害時に備えガス発電機や懐中電灯・食糧関係の備蓄品を設置。	消防署の協力の下、昼夜を想定した火災避難訓練を2～3名の地域住民の参加を得て実施している。災害を想定して、年1回は発電機を利用して非常用食品を調理して食事をしている。救急救命訓練は全職員が受講している。	マニュアルなどを基に、地震時の具体的なケアに沿った対応について全職員で確認するよう期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の自尊心・尊厳を意識し、入居者に決定権を委ね各々のペースに添っている。また、排泄介助等、声掛けを工夫。プライバシーが損なわれないよう一人ひとりに合った対応を行っている。	排泄の介助をする時は、羞恥心を感じさせないよう配慮している。馴れ合いで親しげな言葉になる時は、その都度注意している。申し送りは、事務所や休憩室で行い、個人を特定できないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表す事が出来るようコミュニケーションの機会を多く持ち自己決定しやすい言葉を使い、時には身振り・手振りも交えて対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分などを尊重して自由に過ごしている。職員の勤務体制により全ての希望に沿えない場合もあるが入居者本位で生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が望む理美容室へ行けるよう支援。日頃からその人らしい身だしなみになるよう自己決定し易い方法で支援している。身だしなみを含め清潔が保てるよう、毎日下着交換を行い整髪するなど支援している。		

グループホームなの花すながわ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力や得意な事・嗜好を把握し調理・食事・後片付けまで職員と共にやっている。嫌いな物には代替品を用意。食材の形状など個別的に対応し楽しみとなるよう支援している。	冷蔵庫にある食材で調理をし、前日の献立を掲示して同一の献立とにならないよう工夫している。ホットケーキやドーナツ、白玉のぜんざいなどのおやつ作りをしたり、外食や弁当を楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録。献立に好物を取り入れる、形態を変える、数回に分けて水分を提供、ぬるま湯で服薬など一人ひとりに合った方法で支援している。栄養計算された業者の食事を利用しバランスが偏らないよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の声掛けを行い介助が必要な方にはその人に合った方法で支援。また、口腔内の状態や体調に合わせてその方に合った道具を使用し支援。週一回義歯消毒を行っているが、義歯の状況に合わせて臨機応変に対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の排泄表からパターンを把握し失禁の減少に繋がるよう支援。夜間も睡眠状態を見ながらトイレ誘導を行っている。転倒の危険性がある入居者にはポータブルトイレを使用し、自立支援を行っている。パットの使用についてその都度検討している。	排泄表で間隔を把握することで、日中はパッドが不要となったり、小さいパッドに変更できたこともある。また、夜間はおむつではなく、リハビリパンツを使いトイレでの排泄を介助している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝プルーンと牛乳を摂取している。食事では雑穀米や寒天を混ぜる事もある。お腹の調子を整える為にヨーグルトを摂取したり繊維質が多い食材も取り入れている。体を多く動かせるよう体操や廊下歩行もやっている。便秘時は看護師と連携し下剤の調節を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員の勤務の都合上ある程度時間は決まっているが希望があれば臨機応変に対応している。状態を見ながら入浴予定を組んでおり早めに声掛けし本人の希望に沿っている。入浴剤を使用したり好みの湯温にし補助具を使用し個別に入浴を楽しめるよう、安全にも配慮し支援している。本人の要望である同性介助で入浴している入居者もいる。	日曜日はレクリエーションをしているので、月曜日から土曜日の午後に入浴している。入浴を好まない方には、「お風呂」という言葉は使わず「お手伝いをしたので汗をかいていますね」などの会話をしながら入浴を楽しむことができるよう支援している。家族と温泉を楽しむ利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の好きな時にソファーや居室にて休んでもらい昼夜逆転にならないよう時間を見計らっている。就寝前はゆっくりとした時間を過ごせるよう明かりやテレビの音量を調節。就寝時間は決まっていない。寝付けぬ時はホットミルクを提供。室温にも注意を払い眠りやすい環境作りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報は個人ファイルにて保管。服薬支援は職員間で統一し二重三重のチェックや本人と一緒に確認し事故を防止している。変更時は看護師からの申し送り記録で把握。オプラトを使用する等、一人ひとりに合った服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが持っている力を発揮出来るような場面で役割を持って頂いている。毎日午後より時間を作りレクリエーションを行っている。行事の時は早めにポスターを掲示、ノンアルコールの物を提供。買い物やレクなど気分転換となる事も支援している。		

グループホームな花すながわ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	広々とした中庭があり自由に出入り出来るようになっている。その日の希望に添ってドライブや買い物などに出掛けられるよう支援している。家族の協力も頂き外出・外泊支援も行っている。帰宅願望により戸外へ出た時は危険のないよう見守り、必要に応じて対応している。	夏季は、毎日のように庭や畑に出たり、隣接している同一法人のグループホームに遊びに行ったり、町内を一回りしている。烏骨鶏を飼育している小屋に寄り、卵の値段が話題となることもある。冬季は、家族と買い物に出かけたり管理者の運転でドライブを楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの力に応じてお金を所持している。また、認知症による不安感の早期解消を図る為、統一した声掛けを行っている。管理出来ない方に関しても職員の支援のもと使用出来るようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話の使用が可能。使用を促したりゆっくり話しが出来るよう個室を使用してもらっている。手紙・葉書の投函代行も行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの場所を把握できるよう張り紙をしている。季節感や生活感を感じ取れるよう四季の花、クラフト・行事の写真・日常の写真などを掲示。加湿器・空気清浄機・扇風機等を使用し快適に生活出来るよう、また不快や混乱をまねくような刺激をこまめに軽減し居心地良く過ごせるよう工夫している。	玄関を入ると正面に事務所があり、左右に1号館と2号館につながる廊下がある。居間は、テレビの正面にソファを置き、ひな壇を飾っている。壁に行事の写真や書道の作品を掲示し、洗濯物を干したり、加湿器を使い35パーセントほどの湿度を保っている。食堂の窓から、日差しが差し込む明るい共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	室内・室外ともにゆっくりくつろげる椅子が各所に沢山あり必要に応じて椅子を移動して思い思いに過ごす事が可能。一つのテーブルに集まってお茶を飲んだり居場所の工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今迄使用していた物を沢山持って来て頂けるよう依頼している。入居前と変わらない生活が送れるよう配慮している。家族写真や作品等を持ってきて頂き情報と併せてコミュニケーションをとるきっかけ作りに繋げている。	各居室は、9畳ほどの広さがある。冷蔵庫やベッド、テレビ、ソファ、椅子などの家具を置き、カーペットを敷いて好みのカーテンを使っている。出窓に植物の鉢を置き、水やりをしながら開花を楽しみにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札を掲げ、トイレまでの案内を掲示。手摺りの設置やバリアフリー、スロープを設置したりと、安全に自立した生活が送れるよう支援している。洗濯機の使用方法を繰り返し伝え使用してもらっている。安全面に配慮し、夜間は刃物を鍵のかかる場所に保管している。		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177100278		
法人名	株式会社 北星		
事業所名	グループホームなの花すながわ		
所在地	北海道 砂川市 空知太 西1条3丁目 3番22号		
自己評価作成日	平成27年1月14日・23日	評価結果市町村受理日	平成27年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「1号館」に同じ
----------

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0177100278-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0177100278-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年2月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(2号館 アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は事務所、休憩室、名札の裏に掲載し、日常的に確認できるようにし、職員一人ひとりが理念の実践に努めている。また、事業所便りにも掲載し理念の理解、浸透に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し清掃活動等の町内会活動に参加している。また、事業所の防災訓練に町内会の方の参加や地域保育所との交流など日常的な交流は増えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	看護学生や実践者研修等の実習の受け入れを行っている。また、認知症ボランティアの方へ事業所の紹介や、認知症ケアの実際を伝え、地域貢献できるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、事業所の利用状況や取り組み等の報告を随時行い、関係機関、町内会、家族等と連携を図り、サービスの向上に活かせるよう努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所介護保険課や福祉課、地域包括支援センター等と情報の交換を行い、協力関係を築けるよう努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会などに参加し、学んだ事を職員会議等を活用し、職員全体で理解、共有できるよう取り組んでいる。また、玄関などは日中は施錠せず、自由に入り出来るようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会等の参加や、マニュアルを活用し、虐待防止に関しての知識や意識の向上に努めている。		

グループホームなの花すながわ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、社協の権利擁護を利用している方が二名、後見人制度を利用している方が1名いる。研修等を通じて学ぶ機会を持ち制度の理解、活用に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際には事前に聞き取り調査や施設見学を行い、面談を重ね不安や疑問点の解決に努めている。また、解約時にも十分に話し合いや説明を行うと共に、関係機関や関係者の連携のもと理解や納得が得られるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の要望、意見は日常の会話や面会時に聞き取り、申し送りや職員会議などで話し合い、対応し反映させている。また、苦情相談窓口の設置や、外部機関の案内ポスターを掲示するなど工夫をしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や個人面談等を通じて、職員の意見や要望の把握、反映に努めている。また、本社にも職員意見苦情窓口を設置し対応している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の仕事への取り組みや意欲等を管理者が施設長に報告し、努力や実績、勤務状況等を把握している。また、勤務希望等を出来る限り考慮し、働きやすい職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の案内を回覧し、参加希望の職員や、資格、経験等に応じて参加できるよう、勤務の調整等を行っている。事業所で研修費の負担をし、積極的に参加できる仕組みになっている。褥瘡の勉強会等を事業所で行い、職員が学ぶ機会を増やしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会の参加や、実践者研修の受け入れを行い交流を通じてサービスの質の向上に努めている。施設相互訪問等の交流も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談を受けた際には本人及び家族がホームの見学や面談を行い、不安や希望を聞き出せるよう、コミュニケーションを図っている。また、利用に関して不安がある場合には時間をかけて面談を行い安心して利用できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を受けた際には家族の方にも見学していただき、不安や希望等を聞きだし、安心、納得していただけるよう努めている。また、利用に至るまでの間にも連絡を取り合い情報の交換等に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族からの相談を聞き、場合によっては市町村窓口や、他施設、同事業部施設などの紹介等を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自宅で過ごされている時と同じように、調理や掃除等「持てる力」を活かし暮らしていただいている。また、コミュニケーションの中で喜怒哀楽を共有、共感できるよう、関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来た時や、電話で日常の様子を伝え、家族と情報を共有し共に支えていく関係を築けるよう努めている。また、安心して外出、外泊ができるよう情報提供などの支援を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との外出や外泊、ご家族の宿泊等自由に行えるようにしている。また、馴染みの方や場所との関係が継続出来るよう、電話や手紙を使い支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握、考慮し支援している。また、孤立しそうな方には、職員の関わりのもと、レクリエーションや軽作業を行い孤立しないよう支援している。		

グループホームなの花すながわ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	殆どが事業所から退去後は関係が途切れてしまっている。入院などの場合は病院等に今までの経過や日常生活様子を伝えるなど情報提供に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で会話や表情から思いを察し、その様子を細かく記録し職員全員で共有している。困難な場合は家族から情報を収集し、対応方法を検討し支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、本人、家族、利用していた事業所等から情報収集を行い、生活歴等の把握に努めている。入居後も会話等から情報収集を行い、個人ファイルを作成し、職員全員で共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の観察やコミュニケーションを通じて現状や変化の把握に努めている。把握した情報は申し送りや記録用紙を活用し職員全員で把握、共有できるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、家族、本人の意向をもとに職員で話し合い作成されている。また、身体、精神的変化等が見られた場合、現状に即せるよう計画の見直しも行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき等は記録用紙を活用し、申し送りやカンファレンスにて情報の共有を行い、介護計画の作成や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医師や歯科医の往診、訪問美容等、家族や利用者の要望に応じている。また、状況により、通院の付添い、買い物支援、希望の物の購入など職員が柔軟な対応にて支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設内行事等で町内会の方の協力を頂いている。また、空知太保育所の園児の来訪やボランティアの催し物など協力を頂き支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の方の要望に応じた、かかりつけ医、病院の受診を家族の協力を頂き支援している。状況に応じて通院介助も行っている。また、医師の協力のもと往診等柔軟に対応している。		

グループホームなの花すながわ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が勤務しており、利用者の健康管理や相談に対応できるような仕組みになっている。また、医療面でのアドバイス等日常のケアに活かせる環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も関係性が途切れないよう、職員がお見舞いに行くなど利用者が安心してできるよう配慮に努めている。また、管理者や看護師が医療機関との情報交換や連絡を密にするなどダメージの緩和や早期退院に向けて取り組んでいる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については入居時に意向を聞いている。また、重度化や終末期が予想された段階でもう一度意向の確認を行い、かかりつけ医や医療機関、家族と連携を取り、本人や家族の意向に添えるよう支援に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、初期対応マニュアルの作成や、全職員の普通救命講習の受講を行い、対応できるように努めている。また、緊急時の連絡体制など急変時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内会の方の協力を頂き、年二回の避難訓練を行っている。今年度は夜間を想定した、避難訓練を行った。災害時に備えて、発電機の設置、食料品の備蓄、冬期間は避難経路の除雪等対応を講じている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全体で尊厳を意識し対応している。排泄の介助時など声掛けの工夫や、パット等を他者に見えないよう保管場所の工夫をするなどプライバシーに配慮した対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを多く取り、耳の聞こえの悪い方には時に筆談なども交えるなどの配慮をし、希望を聞き、その人に合った説明をし、自己決定ができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分を尊重し自由に過ごしていただいている。職員の勤務体制により全ての希望にそえない場合もあるが入居者の希望にそえる努力をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族や管理者の支援のもと、馴染みの美容室の利用や、化粧品、衣服の購入など、本人の希望や好みにそってその人らしいおしゃれが出来るよう支援している。		

グループホームなの花すながわ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力や得意とすることを把握し、食事の準備、片付けを一緒に行っている。また、嫌いな物は代替品を提供し、食べやすい形状に切るなども配慮をし、食事を楽しめるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養計算された献立の食事を提供している。水分摂取量は観察や記録などから把握をし、一人ひとりに合った量を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の声掛けや介助を行い、一人ひとりに合わせた対応で口腔内の清潔保持に努めている。また、義歯洗浄剤を使用し、汚れや臭いが生じないよう努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表の記入を行い、パターンを把握し、誘導や声掛けで失禁やパット類の使用が少なくなるように努めている。その方に合わせ、夜間にポータブルトイレを使用するなどの対応も行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材や乳製品の食事を提供し、日中の活動量などに配慮し、支援している。また、便秘時には看護師との連携のもと下剤の調整等を行い支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員の勤務の都合上、ある程度の時間は決まっているが時間外でも希望があれば柔軟に対応し入浴できるよう支援している。また、体調によりシャワー浴や入浴剤の使用、同性入浴介助など心地良い入浴が出来るよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣や体調に合わせ、本人の休息したい時間に休息していただいている。また、室温の管理等を行い気持ちよく休息、入眠出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援、管理は職員全体で統一した方法で行い支援している。薬の変更等は看護師からの申し送りや記録にて把握出来るようになっており、副作用や用法用量等も看護師から説明を受けた上で支援している。また、一人ひとりの嚥下状況を把握し薬の形態を変更し支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味や力に合わせ、編み物、庭の手入れ、掃除等の役割を持って生活している。また、毎月の行事予定を立て、外出支援を行っている。		

グループホームなの花すながわ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望のもと、職員と買い物に出かけたり、家族の方と、外出、外泊等している。また、天気の良い日には、中庭で花を観賞、野菜を収穫したり、食事やお茶を楽しんでいる。周辺の散歩など日常的に支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じて、お金の管理をされている。職員が買い物の代行を行う事もある。また、個々のお小遣いは金銭出納帳にて管理、把握している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望がある時は、電話を掛けたり、手紙、年賀状のやり取り等の支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間には、行事や日常の写真、クラフト作品等を飾り、季節感を感じていただけるよう努めている。また、居心地の良い空間になるよう、不快な音や光、温度や換気に配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中庭のよしず小屋やリビング、玄関等いたる所にベンチや椅子が置いてあり、思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みに、出窓に花を置く、ポスターを貼るなどしている。居室には家族の写真や、好きな本や趣味の物など馴染みの物を置き、居心地良く過ごせるよう工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺りの設置や杖の使用など一人ひとりに合わせた対応で自立した生活が送れるように努めている。また、居室の表札や、ノート、カレンダーへの記入など「わかる力」を最大限活用し混乱や失敗を防ぐ工夫をしている。		



## 目標達成計画

事業所名 グループホームなの花すながわ

作成日：平成 27年 3月 3日

市町村受理日：平成 27年 3月 10日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議について、全家族へ参加の案内と議事録の配布が出来ていない。	全家族に参加の案内と議事録を配布する。	年間の会議のテーマを決め、家族の参加を促していく。参加出来ない家族から意見がもらえるよう、案内の文書に記述式の欄を設け、多くの意見がもらえるよう工夫していく。	12ヶ月
2	6	身体拘束について、職員間で理解にバラつきがある。	バラつきがなくなるよう、勉強会の開催。	半年に一回程度で「禁止の対象となる具体的な行為」について各ユニット会議等の場で確認しあい、学びを深めていく。	6ヶ月
3	35	災害対策について、地震の場合の対策についてマニュアルは用意してあるが、具体的な話し合いが不十分である。	対応を万全にする。	マニュアルに沿って、地域の避難場所を確認すると共に、ガス発電機の使用方法を確認。どんな事が起こり得るか職員全員で話し合い、細かな対応方法を決めていく。	6ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。